



## テクニカル講座—その3 上級者を目指せ！ ステップアップ編

# 第2回 事前発表の情報を有効活用しよう

### 講師・佐々木智之

ささき ともゆき / 1986年7月18日生まれ、神奈川県出身 / 2003年からナショナルチーム在籍、現在プレイングコーチキャプテン / NHK杯全日本個人選抜選手権で4度の優勝のほか、国内外で個人戦及びチーム戦で優勝多数 / ヒサカプロショップ所属

今月号では、テクニカルインフォメーションに記載されている情報から、何が読み取れるかについて解説します。プログラムシートに比べ、あまり気にしないという人もいるかと思いますが。しかし同じオイルパターンを作っても、レーンの素材や、使用されるオイルの種類などによっても、感じ方はまったく異なります。知識として知っておいて損はないと思います。

(取材協力：ボウリング王国スポーツ八景店)

## テクニカルインフォメーションの情報を事前準備に生かす

JBCでは、大会前に先月号で紹介したプログラムシートとともにテクニカルインフォメーションが発表されます。右に掲載しているのは、今年5月に行われたNHK杯第55回全日本選抜選手権のテクニカルインフォメーションです。

これには会場名のほか、そのセンターの設備や使用されているメンテマシーンなど、さまざまな情報が記載されています。なかでも注目してほしい項目に絞って解説していきます。

### ①レーン材

まず気になるのは、レーンの材質がウッドかシンセティックかだと思います。またシンセティックといってもさまざまな種類があります。

参考までに主なものを紹介すると、軟らかい順に、AMFのHPL、ブランズウィックのアンビレーン、システム300、AMFのSPL、ブランズウィックのプロアンビレーンとなっています。

同じオイルパターンを作っても、レーンの硬さによってコンディションの感じ方がまったく変わってきます。硬いほど摩擦しにくいので、ボールが滑りやすくなって曲がりにくく感じます。逆に軟らかいほど摩擦が生まれやすくなるので、曲がりやすくなる傾向があります。従って、事前のボールラインナップを考えるのに、ぜひ気にしてほしいポイントです。

### ②アプローチ

とくにアプローチコンディションが気になる人は、ここもチェックしておくことをお勧めします。レーンとアプローチは同じ材質の場合が多いと思いますが、私は海外の大会でレーンがシンセティック、アプローチがウッドというケースを経験しました。日本で

もそういうセンターがあると思います。私はウッドの方が滑るように感じますが、ウッドでも滑らないアプローチもあると思います。また同じ滑るといっても、ウッドとシンセティックでは種類が違う気がするので、気にした方がいいと思います。

### ③メンテマシーン

今のメンテナンスマシーンは、数値を打ち込むだけでオイルの長さや量など、自在に設定どおりのパターンを作ることができます。今はケーゲル社の製品を導入しているセンターが多いようですが、同じケーゲル社のマ

シーンでも、少し前の機種・カスタディアンだと1種類のオイルしか入れられないけど、フレックスだと1往復の間に行きと帰りでオイルの種類を替えられるなど、性能も進化しています。

## 事前に何も情報がないときのレーンコンディションを読む方法

オイルパターンその他の情報がないまま投げなければいけないこともあると思います。そんなときに私が行っている、レーンコンディションを読む方法を紹介します。

自分のベンチマーク、つまり基準となっているようなボールで、まずは20枚目を板目に沿ってまっすぐ投球します。そしてレーンのどのあたりでボールが起き上がってい

るかを確認します。それによって、オイルが何フィートまで入っているか、だいたいの長さがわかります。

次に同じボールで、今度は5枚目をまっすぐ投げます。このときかなり手前から起き上がってくるようだと、外側のオイル量が少ないので、これはスポーツコンディションじゃないなと判断できます。そして10枚目ぐらいから5枚

目ぐらいまでふくらませて、どの程度曲がってくるかを確認します。全然曲がってこないようなら、外のオイル量が多いから難易度が高めだなと判断できます。

あとはボールの動きが、どの辺までスキッドしているのか、どの辺でフックしているかというのをチェックして、ボールやアングルの選択をしていきます。

### ④使用オイル

最近ボウラーがよく気にしているのは、使用オイルの種類だと思います。例えばサラサラの粘度が低いオイルは伸びやすく、削れやすいけど、ボールのスキッドがいいという特徴があります。逆に粘度が高いオイルは、伸びにくい分、オイルパターンが長持ちすると言われています。ただし粘度が高すぎると、スキッドが悪くなるという特徴もあります。また一度キャリアダウンすると、サラサラのオイルは投げているうちにさらに削れるのに対し、粘度が高いといつまでも奥にオイルを感じるとい

う傾向があります。

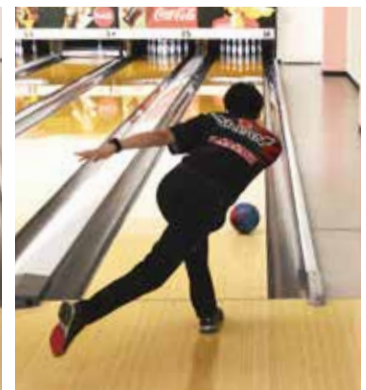
ちなみに最近は、粘度が高いタイプが試合で使われることが多くなっているようで、NHK杯で使用されたICEも、高粘度のオイルでした。



▲スポーツ八景店で使用されているプロデジは比較的粘度の低いオイル



▲20枚目をまっすぐ投げて、どのあたりで起き上がるかでオイルの長さをチェック



▲5枚目をまっすぐ投げて、ボールの動きからスポーツコンディションかどうかをチェック